

畜産 FAX 情報 第4号

令和7年7月1日

発行:ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1.裸地・雑草が増加の傾向

昨年の夏枯れを受け、チモシー主体草地を中心に裸地や雑草が増加しています。想定よりはチモシー割合が回復しているため被害が分かりにくくなっていますが、確実に植生が悪化しています。まずは影響の程度を把握することが重要です。

表1 令和7年と令和8年の1番草植生調査結果の比較(幕別町忠類)

	イネ科牧草	マメ科牧草	雑草	裸地	1番草 乾物収量
令和7年	59%	14%	18%	8%	451kg/10a
令和8年	43%	19%	30%	8%	407kg/10a

※収量調査実施ほ場(9ほ場)の平均値

- ・イネ科牧草の割合が減り、雑草の割合が増加
- ・植生悪化の影響もあり、1番草の収量が減少している

2.今後の対策

(1)追播

裸地をそのままにしておくと、雑草の繁茂につながります。追播を行い、裸地を牧草で埋める対応が必要です。一方で、1番草刈り取り後は、高温・降水量不足になりやすく追播には適さない時期です。秋もしくは来春の追播タイミングを逃さないよう、種の手配などを進めましょう。

(2)更新

雑草が多く侵入しているほ場は、草地更新が必要です。更新計画の見直しを行いましょう。また、収量を確保しながら更新する手段として、飼料用とうもろこしの他に、暖地型牧草(ソルガムなど)やライ麦を組み込んで更新する手法もあります。粗飼料の在庫を確認しながら検討しましょう。

詳細は、配付した「粗飼料栽培ガイド2026 -図解- 夏枯れから忠類の草地を守る管理ポイント」をご覧ください。